
地域づくりの方向に係る現状と課題⑤

5-みどりのネットワークを形成する環境のまち

- 公園をはじめとした緑化をすすめ、みどり豊かなネットワークを形成します。
- 低炭素地域社会の実現及びヒートアイランド対策に積極的に取り組み、人と自然が調和した環境都市づくりをすすめます。
- 区民、事業者、区三者が協働して役割分担を明確にしつつ、ごみの発生抑制、再使用、再生利用の推進と、適正な処理による環境負荷の低減をはかります。

(1) みどりの創造と保全

(2) 環境の保全

(3) リサイクル・清掃事業の推進

5-1 みどりの創造と保全

【政策の概要】

公園づくりにあたっては、設置数が充足している状況を踏まえ、地域の活動拠点ともなる広々とした公園づくりを重点的に行い、「数からまとまりへ」と転換を図ります。

また、区民一人ひとりが、みどりや身近な環境のことを考え、自ら創造していくとともに、区民・事業者・行政が相互に協力しながら「みどり」をつくり、守っていく体制を整備します。

【施策の体系】

- ① みどりの拠点拡大【重点施策】
- ② みどりのネットワーク

【分野別計画】

環境基本計画

みどりの基本計画

【政策の進捗状況】

現状・成果 ・課題	<p>いずれの成果指標も目標値を上回るか、目標値にかなり近い成果を上げている状況である（直近の調査が平成 21 年度である緑被率を除く）。</p> <p>成果指標にはないが、平成 21 年度より「グリーンとしま」再生プロジェクトとして、10 年間で 10 万本を目標に「学校の森」「いのちの森」の植樹を進め、25 年度までに 4 万 7 千本余りの植樹等を行ってきた。植樹場所が少なくなっていることへの対応や育樹の仕組みづくりが課題である。</p>
環境変化 (政策に影響を与えたもの、今後影響を与えるもの)	<p>今後 10 年間で予定されている都市計画道路の整備により、一部の公園で面積が減少する。また、昨今の労務費や材料費の高騰により、公園の整備が予定通り実施できないなどにより、政策に影響を与える可能性も否定できない。</p>
今後の方向性	<p>みどりの条例に基づき、緑化計画の届出や緑化の助成を実施することにより、民間のみどりの保全・創造を図るとともに、公園整備については、地域の活動拠点となりうる一定規模以上の公園整備を重点的に実施していく。また街路樹は、都市計画道路の整備に合わせ、大学や霊園、規模の大きな公園等をみどりで繋げることにより、みどりのネットワークを形成していく。</p> <p>「グリーンとしま」再生プロジェクトでは、区立公園の新規整備等に合わせて「いのちの森」の植樹を行う。また、苗木の配布、界わい緑化制度の活用等により民有地での植樹を進め、緑化への関心を高め、みどりを通じた人的なネットワーク形成を推進する。</p> <p>また、平成 26 年 3 月に環境基本計画を改定した際、新たに盛り込んだ生物多様性地域戦略に基づき、生物多様性の保全に向け、取り組んでいく。</p>

【成果指標】

1	緑被率					
	区面積におけるみどり（樹木、芝、草地など）に覆われた面積。豊島区は緑被現況調査を5年ごとに実施。					

現状値 設定年度	目標 (27年度)	実績					達成率 (対目標)
		22年度	23年度	24年度	25年度		
12.9 21年度末	12.9	—	—	—	—	—	

2	一人あたりの公園緑地面積(単位:㎡)					
	区内にある公園、区民の森、児童遊園、目白庭園等の面積。					

現状値 設定年度	目標 (27年度)	実績					達成率 (対目標)
		22年度	23年度	24年度	25年度		
0.72 21年度末	0.78	0.71	0.70	0.75	0.76	97.4%	

3	公園緑地面積(単位:㎡) 公園面積率(公園面積/区面積)(単位:%)					
	区面積に対する公園、区民の森、児童遊園、目白庭園等の面積の割合。					

現状値 設定年度	目標 (27年度)	実績					達成率 (対目標)
		22年度	23年度	24年度	25年度		
187,812.53 1.44 21年度末	209,000 1.61	187,812.53 1.44	187,429.51 1.44	199,655.62 1.53	203,833.93 1.57	97.5%	

4	区の街路樹本数					
	区内の区道の街路樹の合計本数					

現状値 設定年度	目標 (27年度)	実績					達成率 (対目標)
		22年度	23年度	24年度	25年度		
2,140 21年度末	2,230	2,140	2,182	2,226	2,362	105.9%	

5	区道の街路樹の設置割合(単位:%)					
	道路幅員10m以上の区道総延長に対する緑化された道路総延長の割合。					

現状値 設定年度	目標 (27年度)	実績					達成率 (対目標)
		22年度	23年度	24年度	25年度		
72.3 21年度末	76.0	72.3	73.7	75.0	75.0	98.7%	

5-2 環境の保全

【政策の概要】

地球温暖化対策など、地球環境に対する区民の関心が高まる中、人と自然が調和した環境への負担の少ない環境重視の都市づくりを目指します。

区民、事業者、行政が一体となって環境管理の仕組みを整備し、定着を図るとともに、地域の美化についての取り組みを推進します。

【施策の体系】

- ① 都市公害の防止
- ② 低炭素地域社会の実現【重点施策】
- ③ 環境まちづくり
- ④ 地域美化の推進

【分野別計画】

環境基本計画

【政策の進捗状況】

現状・成果 ・課題	<p>省エネ・節電への意識が浸透し、行動は定着しつつあるが、原発の停止に伴いCO2排出量が増大している。環境への負担の低減のためには、引き続きあらゆる主体での取り組みが必要となる。</p> <p>路上喫煙・ポイ捨て防止パトロールにおいては、パトロール員の増員、パトロール時間の延長、パトロールエリアの拡充を行ない、条例の趣旨目的を達成する。</p> <p>喫煙所の再整備は、現在の喫煙所の機能充実、新喫煙所の開設等により、たばこの火から歩行者を守るとともに、分煙を徹底する。</p>
環境変化 (政策に影響を与えたもの、今後影響を与えるもの)	<p>東日本大震災後、電力の供給不足を経験したことから、区民の節電意識の定着や再生可能エネルギーへの関心が高まった。一方で、原子力発電所の停止の影響を受け、電力使用によるCO2排出量が大幅に増加し、エネルギー消費量は減少しているにも関わらず、CO2排出量は増加するという状況になっている。</p> <p>パトロールの強化並びに喫煙環境の整備が求められていることから、平成23年5月30日に区内全域での路上喫煙禁止を定めた「路上喫煙及びポイ捨て防止に関する条例」を施行した。</p>
今後の方向性	<p>低炭素地域社会の実現に向けては、再生可能エネルギーの普及拡大、環境配慮の促進、交通対策による低炭素化、安全・安心で低炭素なまちづくりといった取り組みについて、区民・事業者・区や都、国など、あらゆる主体の行動が必要である。</p> <p>安全・安心できれいな街づくりの確立のため、より一層の環境美化事業を展開していく。</p>

【成果指標】

1	温室効果ガス(CO₂)の排出量(単位:千t)
	温室効果ガス(CO ₂)の区内の年間排出量。「豊島区環境基本計画」において、平成17年度と比較して、平成37年度30%以上削減の目標を掲げているため、矢印でそれを示す。

現状値 設定年度	目標 (27年度)	実績				
		22年度	23年度	24年度	25年度	達成率 (対目標)
1,612 19年度	↘	1,476	1,557	—	—	—

2	道路や公園、街角などにポイ捨て等がなくきれいであるとする区民の割合(単位:%)
	「協働のまちづくりに関する区民意識調査(平成22年6月実施)」の割合。

現状値 設定年度	目標 (27年度)	実績				
		22年度	23年度	24年度	25年度	達成率 (対目標)
24.7 22年度	↗	24.7	—	—	28.5	—

5-3 リサイクル・清掃事業の推進

【政策の概要】

資源循環型社会の構築を目指して「3R」を推進する施策を展開し、さらなるごみの減量と限りある資源を有効に活用することにより、廃棄物による環境への負荷を軽減します。

また、区民、事業者、行政3者が協働して役割分担を明確にしつつ、廃棄物の発生抑制や再資源化、適正な処理を進めます。

【施策の体系】

- ① 3Rの推進【重点施策】
- ② 資源循環型清掃事業の推進

【分野別計画】

一般廃棄物処理基本計画

【政策の進捗状況】

現状・成果 ・課題	大幅なごみの減量を達成している。ごみの減量を目的とした取組の進展を計測・評価するための一指標である資源化率については、民間事業者等が行っているリサイクルの状況を把握することができないため、資源化率の数値目標を改めたところであり、資源循環型社会の構築に向けた区民、事業者、区の協働による取組みは順調に進んでいる。
環境変化 (政策に影響 を与えたもの、 今後影響を与 えるもの)	使用済小型電子機器等の再資源化の促進に関する法律の施行や水銀に関する水俣条約の締結等により、区にも新たなリサイクル制度と廃棄物のより一層の適正処理が求められている。
今後の方向性	リデュース・リユースにおける地域の取組を拡大させつつ、既に民間事業者等が担っているリサイクルルート of 積極的な活用を進めるなど、さらなるごみの減量を目指す。

【成果指標】

1	ごみ量(単位:トン)					
	区で収集している可燃ごみ・不燃ごみ・粗大ごみの年間収集量。廃プラスチックサーマルリサイクルの実施により不燃ごみは大きく減少した。ごみ量全体としては減少傾向にある。					

現状値 設定年度	目標 (27年度)	実績				達成率 (対目標)
		22年度	23年度	24年度	25年度	
64,496 21年度末	59,292	62,904	62,661	59,964	58,853	100.7%

2	資源化率(単位:%)					
	ごみ量の減少とともに資源量は、近年微減傾向にあることから、新たな指標として資源化率を設定する。後期目標は「平成20年度一般廃棄物処理基本計画」による。					

現状値 設定年度	目標 (27年度)	実績				達成率 (対目標)
		22年度	23年度	24年度	25年度	
23.0 21年度末	31.0	20.7	20.9	21.5	21.6	69.7%